

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年5月15日

事業所名 リハこどもデイフクシア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	ロールカーテンやパーティションを利用し、視覚的に仕切ることによって目的別に環境を整備している	目的に沿った適切な活用を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	複数事業所を展開しているため定期的な配置換えをしている	人員基準を順守し、職員を配置していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	訓練室は広く、柱があるため死角ができる	設備に関して、視覚的なアプローチや、危険が予測される場所に対する環境整備を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	各療育に合わせ、集中できる環境を整備している	感染防止の目的も含め、就業前後の掃除、活動内容に合わせての環境設定を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	勉強会などの開催	ミーティング、朝礼時にてPDCAサイクルを行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	評価表に記載されているご意見を参考に業務改善を実施する	アンケートや、満足度の調査を活かし、業務改善に活かしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	HPやSNSを利用して、公開している	事業所ホームページに掲載し、今後の展開も含め具体的な行動指針を掲げる。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	外部評価は受けていません	今後は第三者評価を検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	オンライン研修も取り入れている	定期的な研修、伝達講習を行う。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	利用児や保護者のニーズ把握や課題分析を専門的に行っている	利用児、保護者のニーズに沿った計画を各専門分野からの意見も踏まえ作成する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	セラピストによるアセスメントを実施	保育士や介護福祉士等もアセスメントをしっかり取るようにしていきたい
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	保護者や相談員、学校の担任などの意見を聞いている。	具体的な支援内容が、適切に実施出来ているかを、チームとして振り返る時間を持つ。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	新規利用やモニタリング時に見直す	相談員や各関係機関と意見交換をしながら、支援していきたい
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	概ね3カ月ごとにカンファレンスを実施	カンファレンスや症例検討などの機会を増やし、継続していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節ごとに行事を取り入れている	季節などに合わせて工夫している
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	概ね出来ている	状況の変化に合わせて緊急ミーティングを行う。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日の朝礼時に確認をしている	各専門分野の役割を明確にし、動きの確認を行う。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	振り返りを、申し送りノートを活用し、必ず伝達を行う。	申し送りノートを活用し、休みの職員にも情報共有が出来るようにしている
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	ダブルチェックしている	個人カルテや日誌、申し送り表等の記録をもとに、さらに利用児に関する療育などうまくつながるように改善していく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	概ね出来ている	定期的にモニタリングを行い発達、成長に合わせた見直しを行っている
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	担当者が参画困難な場合は必ず、引継を行い、的確なコメントができるように配慮する。	オンライン会議など感染状況に応じて柔軟な対応が必要となっている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	定期的に訪問している	営業的な意味合いで受け取られることがある
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%	実績なし	連携医療機関と協議して、体制を整えていきたい
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%	実績なし	連携医療機関と協議して、体制を整えていきたい
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	特別支援学校での会議などに参加している	各関係機関との連携を強化していくためにも、発信者としての役割を果たす必要がある。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	依頼があった際には書面や電話でコミュニケーションを図っている	各関係機関との連携を強化していくためにも、発信者としての役割を果たす必要がある。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%	専門機関が主催する定例会や研修に参加してコミュニケーションをとっている	地域や、専門機関との連携強化の為に連携会等の参加を積極的に行う。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	地域の公園で同世代のお友達と一緒に遊べるようにしている	イベント、行事等に入れ込んでいく必要あり。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	地域で部会や会議が行われていない	コロナの影響で、ほとんどの行事が中止となる。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	主に送迎時に伝えている。	毎日の送迎や連絡帳を通じて報告しているが、さらにコミュニケーションの機会を増やしていきたい
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%	実績なし	今後はペアレント・トレーニング支援を検討していきます。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に実施	契約時に実施	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	できる限りわかりやすく説明している	専門用語は避け、具体的に理解しやすい表現で記載するよう心掛けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	随時、対応している	いつでも連絡がとれるよう体制を整えている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	親子で参加出来る行事を開催している	父母会等に対応する支援や保護者同士の連携を支援できる体制を整えていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	随時、対応している	いつでも連絡がとれるよう体制を整えている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNSを利用し、行事予定や日頃の様子など発信している	会報等は実施できていないが行事ごとに案内文を作成してお知らせしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	概ね出来ている	個人が特定されないようにSNSやHPでの画像にはモザイク処理を施しています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	評価をしっかりと行い対応する	個々に合わせた意思疎通、情報の伝達ができるように心がけていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	こども食堂の開催	食中毒やコロナ感染症など予防策を講じながら実施している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	概ね6カ月ごとに現状に合った内容を見直している	概ね6カ月ごとにマニュアルの見直しを行っているが保護者への説明は不十分だと思いますので改善していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	DVD教材を使用して災害時教育を行っています。	訓練回数が少ないので火災、地震など災害ごとに分けて実施するよう検討する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	利用児や服薬がある場合に毎回確認を取っている。	利用児や服薬がある場合に毎回確認を取っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書や保護者からの連絡で把握している	事前面談時に家族にアレルギー等の確認している。それをスタッフ全員で把握するようにしている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	全体会議で共有している	毎月、リスクマネ会議を開催し、集計、分析、改善を行っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	勉強会や研修への参加	研修の機会を増やしていきたい
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0%	100%	実績なし	主治医と相談のうえ対応、対策を講じていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。